

2011年度改訂第5版

監修の序

本書は、研修医の方々や医療の第一線で多忙な診療に従事しておられる先生方が、診断および治療を迅速に進めていただけるように、診断の要点と薬品を系統的に整理し、持ち運びできるようにポケット判としております。

本書も初版より5年経ちました。読者の皆様からのご意見を参考にさせていただき、読みやすく、使いやすい書籍にすることを目標として毎年改訂を行ってきました。本年度は、「知りたい処方がすぐにわかる」ことに重点をおきました。説明が重複している薬品を整理し、コアとなるページを設け、索引内でコアとなるページが一目で分かるようにいたしました。また、索引を引きやすくするように、索引ページを3段組から2段組にいたしました。さらに、どの分野でも必須である抗菌薬につきましては、全般の理解を深め選択しやすくするために、説明を1カ所に集約いたしました。

そのほかにも、いくつかの工夫をさせていただきました。付録に、「腎機能が低下した患者への薬の使い方」と「妊娠中・授乳中の薬の使い方」を追加しました。また、第Ⅰ章の日常診療で出会う症状・症候へのアプローチの参照項目欄をさらに充実させ、第Ⅱ章へのリンクがより円滑になるように努めました。1つの試みとして、コラム欄を設けました。私がふだん診療の場で留意していることや気付いたことを交えながら書かせていただきました。ご意見を賜りますれば幸いです。

皆様に本書が一層親しまれ愛されることを心より願いながら、2011年度版をお届けいたします。

2011年1月

梶井英治